音楽の街－狛江から邦楽愛好者の輪を広げていきたいです。

音楽活動のかたわら、全国高等学校総合文化祭へ何度も出場している都立狛江高等学校箏曲部を指導するなど、邦楽の伝承に貢献している箏曲・三味線演奏家の渡辺正子さん（46）に話を聞いた。

箏曲・三味線演奏家

この人と　渡辺（わたなべ）　正子（まさこ）さん

箏との出会いと魅力■母が家で箏を教えており、物心つく前から姉と母の稽古場に出入りしているうちに、もっとやりたくなりました。いつも一番弾けなくて、叱られ役でしたが、一度もやめたいと思ったことはありませんでした。高校卒業後は三味線や地唄も習い始めました。たくさんの方と演奏したりプロの音を聴く機会が何度もありましたが、短期大学で就職活動を始めた時、「私に向いている仕事」を考えているうちに、初めてプロ演奏家を目指す気持ちが高まりました。それで箏の専門学校に進むとともに、邦楽器演奏家の登竜門ともいわれるNHK邦楽技能者育成会に入りました。

自分がやっている中では地唄箏曲（箏の古典音楽）がとても好きです。ただ、よく一緒に演奏するアメリカ人尺八奏者として有名なネプチューン海山さんのジャズの世界も好きですね。箏は日本の楽器ですが、できないジャンルがある訳ではないので音色とジャンルの壁を越えて融合－ひとつになったときの楽しさは最高ですね。

邦楽に触れる■昔は教養のひとつとして箏を習う人もいましたが、いまは急速に減っていて、廃れてなくなるという危機感を感じていました。そうしたなかで、文化庁の伝統文化こども教室事業が平成15年から始まったのを知って、狛江市でも子どもたちにお箏を伝えられるかなと思いました。自分ひとりの力では難しいけど、国のバックアップと市の協力があればと思い市の担当者にお話ししたら、「ぜひやってほしい」ということで、17年から文化庁委嘱財団法人伝統文化活性化国民協会事業狛江箏こども教室が始まりました。学校や児童館で箏や三味線の伝承教室がスタートし、23年から25年にかけて文化庁による「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業『狛江市伝統文化地域活性化事業』」として体験講座や発表会、子どもだけでなく幅広い市民が対象のワークショップによる啓発活動と人材育成の講習会なども行いました。24年2月には、太鼓などのグループと「和楽器と絵手紙のコンサート」や「未来コンサートⅡ」も開きました。

息子が狛江第一小学校に通っていますが、子どもが生まれる前から一小とはお付き合いをしています。５年生の総合学習の時間に伝統文化、お茶、お華、箏、着付けなどから選択して学べる授業をやっていますが、箏は大人気で、毎年開催する伝統文化箏子ども教室は毎回定員20人を抽選で決めるほどです。狛江第六小学校でも伝統邦楽の時間を設けています。子どもだけでなく、市内にも邦楽を演奏する人が多く、狛江市と地域の人たちがすごく邦楽に理解を示してくれていますので、この街から邦楽愛好者の輪を広げていきたいです。

邦楽を伝える■プロとしての演奏は「自分の表現をどこまでお客様に伝えていけるか」だと思います。教える時は演奏家として得たものを伝えるようにしていますが、弾く人も聴く人も楽しみ、リラックスして音楽を楽しむことを大切に思っています。お箏というと、すごく厳しくて、きちんとしたイメージがあるかもしれませんが、うちの稽古場では、特に子どもにはあまり細かいことは言いません。正座ができなくても、まず音を出そうと言ってます。弾いているうちに、正座の方が弾きやすいので、次第に姿勢もきちんとしてくるんです。最初から「これをしなさい」「あれをしなさい」は言わないで、まずは興味を持ってお箏に向くこと、作法やしきたりはその後からですね。

狛高箏曲部の指導は週１回しか行かないので、濃縮した稽古をしています。礼儀作法をはじめ基礎から応用まで一気に指導します。全国制覇を目指すために、演奏もプロ級の難曲に挑戦し、秋の全国大会の予選で勝ち進めるようにします。３カ月で予選に出なくてはいけないので、部活に行ったら稽古の１時間でどれだけ伸ばせるかが大事です。でも、応えてくれるんですよ、あの子たちは。言った課題を次週に100％やってきますから、教えがいがあります。狛江高校は、私にとっても原点です。あそこへ行くと気持ちがシャキッとするし、初心に返るし、エネルギーをいっぱいもらっています。市内では狛高箏曲部の演奏を聴く機会が増えており、邦楽の魅力をたくさんの人に知ってもらうことができ、うれしいです。

渡辺正子さんの横顔＝小金井市生まれ。調布市へ転居し、平成10年から狛江市在住。短期大学卒業後に邦楽の専門学校正派音楽院入学。箏、三絃、邦楽理論を学び、研究科を経て平成12年ＮＨＫ邦楽オーディション合格。13年ＮＨＫ邦楽技能者育成会45期首席卒業。15年日本音楽集団に入団。17年に箏・十七絃・二十絃・三絃によるファーストアルバム「いとへんげ～糸変華～」リリース。NHKFM「邦楽のひととき」などに出演するほか、多数のコンサートに出演。約20年前から都立狛江高等学校箏曲部の指導に携わり、現在は東京都部活指導員。平成29年から狛江市子育て委員、31年に狛江第一小学校のPTA副会長を勤めた。趣味は健康素材を使った料理と菓子作り。夫と子ども３人、父の６人家族。

兄弟で約 100 種の手作りパンを提供

店舗めぐり　◆ 95 ◆

オーロールスミレ

オーロールスミレ（岩戸南4－32－3）は市内で最も古いベーカリーのひとつ。

創業者の木下淑夫さん（81）は、狛江育ちで学校卒業後、さまざまな仕事に就き、長男の裕生さん（48）が生まれた頃は東野川で貸本屋を営んでいた。店のなじみ客だったパン職人に新規開店するベーカリーの共同経営を誘われパン職人になった。その店は昭和48年秋に入居が始まった東野川３丁目のハイタウン近くの商店街にあった。淑夫さんはパンを焼いた経験がなく、妻と一緒に店で働きながら３年間腕をみがき、現在の店の近くの店舗付き住宅を借りて、53年頃に独立した。前の店がパンメーカーの手作りベーカリー部門のフランチャイズ「オーロール」グループに属していたため、引き続きフランチャイズ店となり、材料を仕入れるとともに店名も「オーロールスミレ」と付けた。

木下裕生さん（左）と昌久さん

開店当初は仕入れたパン生地を使っていたため、食パンなどの定番とサンドイッチなどが中心で種類も多くなく、菓子やアイスクリームなども扱った。初めは市内外の店で委託販売したり、近くの保育園にパンを納入した。店の周りは田園地帯で商店も少なかったが、周辺に住宅が次々と建ち、世田谷区側に都営喜多見二丁目アパートができると、焼きたてのパンを売る店は人気を集め、経営は軌道に乗った。淑夫さんは、すべての工程を自分でやるように改め、パンを通して客と会話するのが楽しく、天職と感じるようになったという。開店から10年後に現在の土地を買って店舗付き住宅を建設、パン工房を広げ、ミキサーなどの設備を整え、パンの種類も増やした。

両親の働く姿を見て育った裕生さんはパンと菓子の専門学校を卒業後、世田谷区烏山にある和菓子メーカーのベーカリー部門に就職した。弟で現社長の昌久さん（42）は高校の調理科を卒業後、兄と同じメーカーに勤めた。裕生さんは弟と入れ替わりで退職し家で働いたが、１年後に西洋レストランのフランスパン部門に就職。平成16年に父が共同経営者だった東野川のベーカリーを引き継いで「パンdeヤス」と名付けて独立した。

昌久さんは５年間勤めた後、父から望まれて退職、家を継いだ。昌久さんはパンの種類を増やすのに努め、現在では約100種を数える。また平成20年度の「狛江スイーツ逸品コンテスト」で優秀作品賞を受賞した。

令和元年に裕生さんの店が立ち退きで閉店することになったため、父の代わりに実家の店で働くことになり、昨年１月から兄弟でパン作りをすることになった。

裕生さんによると「弟は、父の下で長く働いてたので、仕事が速くて正確」、昌久さんは「兄は自分で店を経営していたので、機械の保守や取り引き先との交渉がうまい」と互いの長所を認めている。２人は「父の代からのお客さんも多く、これからも兄弟２人で店を盛り立てていきたい。お客さんの『おいしい』という言葉が励みになります」と話している。

オーロールスミレ＝☎3480-8542

営業時間＝午前8時～売り切れ次第終了、定休日＝木曜・第２日曜休み

貸本屋から転職し53年頃に独立開業／焼きたてパンが人気

コロナに負けず子どもたちが成果を披露

能楽教室発表会　YouTubeでも配信

狛江能楽教室発表会が12月26日㈯西河原公民館で催された。

伝統文化親子教室事業として文化庁から支援を受け、金春流能楽師中村昌弘後援会と狛江市の共催で開催したもの。

この日は、教室に通っている幼児から小・中学生まで15人が舞台に上がり、連吟・仕舞・笛・小鼓など練習の成果を披露。訪れた人たちは子どもたちの熱演に大きな拍手を送っていた。また、子どもたちを指導しているシテ方金春流の中村昌弘さん、笛方森田流の栗林祐輔さん、小鼓方観世流の鳥山直也さんらが舞囃子として「敦盛」を上演した。

この日は新型コロナウイルス感染症防止対策により入場者を制限したため、見られなかった人に向けて、動画を YouTubeで公開している。

小鼓を披露する子どもたち

つなげよう音楽の架け橋

この教室は、日本を代表する伝統芸能として650年以上の歴史を持つ能楽に親しんでもらおうと、青少年を対象に平成22年から開いている。子どもたちは市内で中村さんたちから謡、笛や小鼓、所作や舞いなど能楽の基本を学んでいる。

中村さんは「ことしは新型コロナウイルスの影響で練習の開始が例年より遅く、オンラインで練習するなど苦心しました。発表会も開けるかどうか心配でしたが、子どもたちがよくがんばってくれました」と話していた。

問い合わせ☎090-1797-5319中村さん。